

■ 概況

9/10~9/16のNYMEX・WTI先物市場は、37.26~40.16ドルの範囲で推移した。

9月17日は、OPECプラスが合同閣僚監視委員会(JMMC)を開催、違反増産国への減産義務付け等が好感され、3日続伸した。10月限終値は前日比0.81ドル高の40.97ドル。

週末18日は、前日のOPECプラス会合への好感やリビアの原油出荷再開報道、米中対立の激化等の要因が交錯し、わずかに続伸した。なお、米国稼働石油掘削機は前週末比1基減の179基で2週連続の減少。10月限の終値は前日比0.14ドル高の41.11ドル。

週明け21日は、リビアの出荷再開、欧州における新型コロナ感染再拡大など需給緩和が意識、5営業日ぶりに大幅反落した。10月限終値は前週末比1.80ドル安の39.31ドル。

22日は、前日の反動の安値拾いや翌日の米国原油在庫の減少予想などを材料に反発した。この日納会の10月限の終値は前日比0.29ドル高の39.60ドル。

23日は、米国エネルギー情報局(EIA)週報で原油在庫が前週比160万バレル減、ガソリンも400万バレル減と報告され続伸。11月限の終値は前日比0.13ドル高の39.93ドル。

24日は、前日のEIA在庫週報でガソリン・中間留分の在庫減少が好感、3日続伸した。11月限の終値は前日比0.38ドル高の40.31ドル。

週末25日は、欧州等の感染再拡大を背景とする需要減速懸念からわずかに反落した。なお、米国稼働石油掘削機は前週末比4基増の183基で3週ぶりの増加。11月限の終値は前日比0.06ドル安の40.25ドル。

週明け28日は、米国の追加経済対策への期待、アゼルバイジャンとアルメニアの紛争激化等から、反発した。11月限の終値は前週末比0.35ドル高の40.60ドル。

29日は、コロナの感染再拡大の懸念等エネルギー需要の先行き不安から、大幅反落した。11月限の終値は前日比

1.31ドル安の39.29ドル。

30日は、米国エネルギー情報局(EIA)週報で原油在庫が前週比200万バレル減で3週連続の減少を好感して、反発した。11月限の終値は前日比0.93ドル高の40.22ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(11月渡し)は9月10日~16日の間38.90~40.50ドルの範囲で推移した。9月17日41.10ドル、18日43.20ドル、23日40.70ドル、24日41.20ドル、25日41.70ドル、28日41.40ドル、29日41.80、30日40.20ドルと推移した。

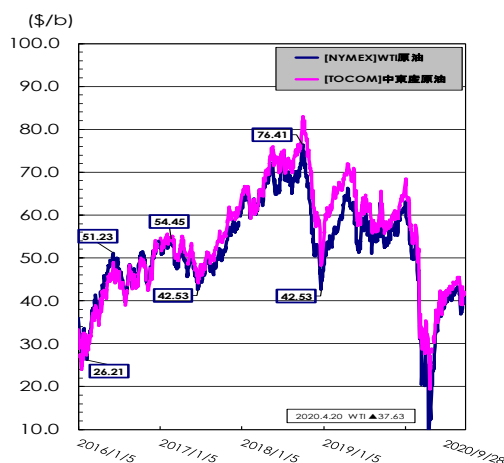
為替は9月10日~16日の間105.38~106.22円の範囲で推移した。9月17日105.07円、18日104.84円、23日105.14円、24日105.45円、25日105.56円、28日105.37円、29日105.35ドル、30日105.80ドルで推移した。

財務省が9月29日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、9月上旬の原油輸入平均CIF価格は、30,499円/klで、前旬比427円高、ドル建て45.74ドルで前旬比0.77ドル高、為替レートは1ドル/106.01円。

そのような中で、9月23日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.8円の値下がり、軽油も同0.8円の値下がり、灯油も同5円(18%ベース)の値下がりだった。ガソリンは3週ぶりの値下がり、軽油も3週ぶりの値下がり、灯油も3週ぶりの値下がりだった。この週(9月第3週)の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比1.0円の引き上げとなった。

また、9月28日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値下がり、軽油も同0.2円の値下がり、灯油も同4円(18%ベース)の値下がりだった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだったが、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比据え置きとなった。

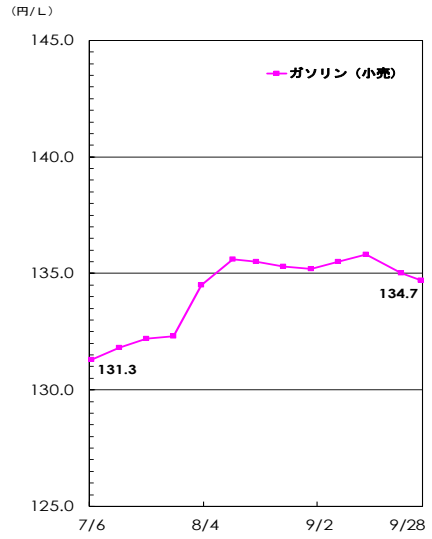
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/20 ~ 9/26	2,749 ▲ 145	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	70.2 ▲ 3.7	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	9/26	12,472 ▼ -662	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	9/28	41.68 ▲ 0.36	▼ -16.7
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	9/28	40.60 ▲ 1.29	▼ -13.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月上旬	45.74 ▲ 0.77	▼ -18.56
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	30,499 ▲ 427	▼ -12.631
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.01 ▲ 0.31	▲ 0.63
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/28	106.37 ▼ -0.23	▲ 2.55



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/20 ~ 9/26	893 ▲ 53	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	914 ▲ 145	▲ -	
	輸出	"	16 ▲ 16	▼ -	
	在庫	9/26	1,792 ▼ -37	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/22 ~ 9/28	43.2 ▲ 0.8	▼ -16.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/22 ~ 9/28	38.9 ▲ 0.6	▼ -15.6
		(TOCOM/中部)	9/28	41.4 ▼ -0.4	▼ -14.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/28	134.7 ▼ -0.3	▼ -10.7	

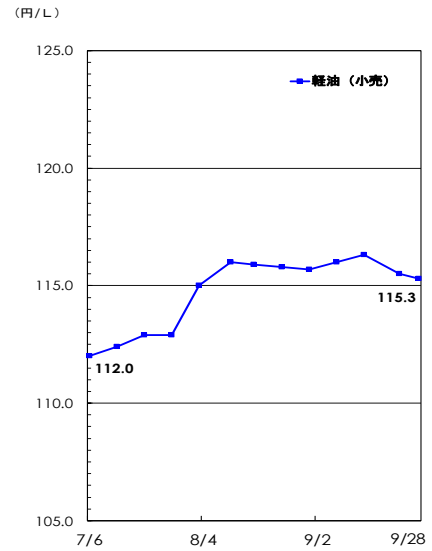
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

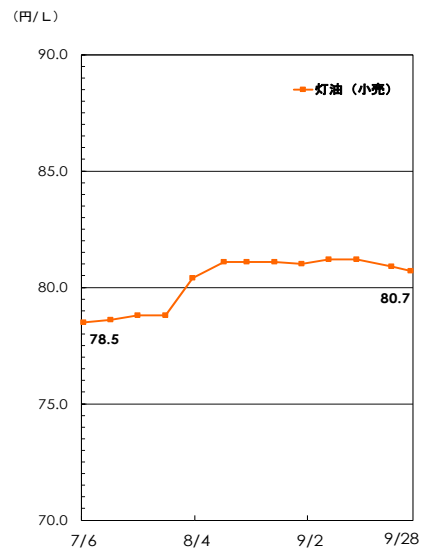
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/20 ~ 9/26	650 ▲ 20	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	604 ▼ -4	▼ -	
	輸出	"	126 ▲ 79	▼ -	
	在庫	9/26	1,485 ▼ -80	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/22 ~ 9/28	45.3 ▼ -0.2	▼ -17.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/22 ~ 9/28	46.9 ▲ 0.1	▼ -15.8
		(TOCOM/中部)	9/28	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/28	115.3 ▼ -0.2	▼ -11.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/20 ~ 9/26	252 ▲ 67	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	181 ▲ 123	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	9/26	2,848 ▲ 71	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/22 ~ 9/28	45.5 ▲ 0.7	▼ -16.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/22 ~ 9/28	42.3 ▲ 0.4	▼ -16.1
		(TOCOM/中部)	9/28	43.5 ▲ 0.6	▼ -16.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/28	80.7 ▼ -0.2	▼ -10.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月23日のNYMEXのWTI先物原油は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で18日時点の原油在庫が前週比160万バレル減少と市場予想(230万バレル減)をやや下回る取り崩し、ガソリンも同400万バレル減、中間留分も同340万バレル減と需要先細り懸念が後退、続伸した。11月限の終値は前日比0.13ドル高の39.93ドル、12月限の終値は同0.13ドル高の40.22ドル。

また、9月30日のNYMEXのWTI先物原油は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で25日時点の原油在庫が前週比200万バレル減少と市場予想(160万バレル増)に反する取り崩し、ガソリンは同70万バレル増、中間留分は同320万バレル減となり、需要減速懸念が後退、

反発した。11月限の終値は前日比0.93ドル高の40.22ドル、12月限の終値は同0.91ドル高の40.47ドル。

EIAによると、9月21日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.5セント値下がりの1ガロン2.168ドル(60.5円/㍈)、ディーゼルは同1.8セント値下がりの2.404ドル(67.1円/㍈)となった。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がりだった。また、9月28日時点のガソリンの小売価格は、前週比0.1セント値上がりの1ガロン2.169ドル(60.9円/㍈)、ディーゼルは同1.0セント値下がりの2.394ドル(67.2円/㍈)となった。ガソリンは4週ぶりの値上がり、ディーゼルは4週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年9月20日～9月26日に休止したトッパー能力は52.6万バレル/日で、前週に対して24.4万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は274.9万klと、前週に比べ14.5万kl増加。前年に対しては55.0万klの減少。トッパー稼働率は70.2%と前週に対して3.7ポイントの増加、前年に対しては14.1ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、A重油で減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/6.4%増、ジェット/25.7%減、灯油/36.4%増、軽油/3.1%増、A重油/7.9%減、C重油/26.0%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.5万kl減)。軽油の輸出は12.6万kl(前週比7.9万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、軽油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、灯油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は91.4万kl(対前週18.9%増)と3週振り増加した。ジェット6.6万kl(対前週26.0%減)、灯油18.1万kl(対前週208.9%増)、軽油60.4万kl(対前週0.7%減)、A重油

18.7万kl(対前週21.5%増)、C重油15.7万kl(対前週10.3%増)。

(単位:千kl)

	今週 (9/20 ~ 9/26)	前週 (9/13 ~ 9/19)	前週比
ガソリン	914	769	▲ 145 (19%)
ジェット燃料	66	90	▼ -24 (-27%)
灯油	181	58	▲ 123 (212%)
軽油	604	608	▼ -4 (-1%)
A重油	187	154	▲ 33 (21%)
C重油	157	142	▲ 15 (11%)
合計	2,109	1,821	▲ 288 (16%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月26日時点の在庫は、ジェット、灯油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは179.2万kl、前週差3.7万kl減。前年に対しては29.0万kl多い。

灯油は284.8万kl、前週差7.1万kl増。前年に対しては27.5万kl多い。

軽油は148.5万kl、前週差8.0万kl減。前年に対しては3.7万kl多い。

A重油は70.9万kl、前週差3.3万kl減。前年に対しては1.8万kl多い。

C重油は185.0万kl、前週差3.3万kl減。前年に対しては6.0万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (9/26)	前週 (9/19)	前週比
ガソリン	1,792	1,829	▼ -37 (-2%)
ジェット燃料	846	833	▲ 13 (2%)
灯油	2,848	2,777	▲ 71 (3%)
軽油	1,485	1,565	▼ -80 (-5%)
A重油	709	742	▼ -33 (-4%)
C重油	1,850	1,883	▼ -33 (-2%)
合計	9,530	9,629	▼ -99 (-1.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月15日～21日の原油価格は前週比で値上がりし、為替レートはやや円高で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、前週比1.0円の引き上げとなった。

また、9月22日～28日の原油価格は前週比でわずかに値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストはわずかに値上がりしたと見られる。ただ、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、前週比据え置きとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月15日～21日の製品スポット市況は、9月8日～14日平均と比べ、先物のガソリンの横ばい、海上と先物の灯油・先物の軽油の値上りを除き、他の取引で値下がりした。また、9月22日～28日の製品スポット市況は、9月15日～21日平均と比べ、陸上の軽油の値下がりを除き、他の取引で値上がりした。

り、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。先物価格は、同期間(9/22～9/28)に、ガソリン92円台で値上がり、灯油41～42円台で値上がり、軽油46～47円台で値上がり後わずかに値下がりして推移した。

直近(9/22～9/28)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(9/15～9/21)比で、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は0.7円の値上り、軽油は0.2円の値下がりだった。直近(9/22～9/28)において、ガソリンは96～97円台でほぼ横ばい、灯油も45円台でほぼ横ばい、軽油は45円台でわずかに値下がりし推移した。

(RIM) (単位: 円/ℓ)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (9/22～9/28)	前週 (9/15～9/21)	前週比
レギュラー	43.2	42.4	▲ 0.8
灯油	45.5	44.8	▲ 0.7
軽油	45.3	45.5	▼ -0.2

(TOCOM) (単位: 円/ℓ)

[期近物/終値] [平均]	今週 (9/22～9/28)	前週 (9/15～9/21)	前週比
レギュラー	38.9	38.3	▲ 0.6
灯油	42.3	41.9	▲ 0.4
軽油	46.9	46.8	▲ 0.1

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(9/22～9/28)に、前週比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油も0.2円の値上がりだった。海上スポット価格は、同期間(9/22～9/28)に、ガソリンは98～99円台で値下がり、灯油は41～44円台で出入り激しく値上がり、軽油は47円台で横ばいで推移した。

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/22～9/28実績値) (単位: 円/ℓ)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.8	▲ 0.6	▲ 0.7
灯油	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 0.5
軽油	▼ -0.2	▲ 0.1	▼ -0.1
A重油	▲ 0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり

4 国内/製品小売価格

9月23日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(9月14日)比0.8円安の135.0円、軽油も同0.8円安の115.5円、灯油は18ℓベースで同5円安の1,457円(1ℓベースでは80.9円で同0.3円安)。ガソリンは3週ぶりの値下がり、軽油も3週ぶりの値下がり、灯油も3週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは4県、横ばいは2県、値下がり41都道府県となった。全国最安値は徳島県の127.8円(前週比0.4円高)、その次に安いのが宮城県の129.0円(同0.8円安)、最高値は長崎県の145.2円(同0.1円安)。最も値上がりしたのは、同0.7円高の兵庫県(133.2円)、横ばいは栃木県・熊本県、最も値下がりしたのは、同2.7円安の秋田県(130.3円)だった。今週(9月15日～21日)は、原油価格は値上がりし、為替レートはやや円高で、円建ての原油コストは値上がりしたと見られる。次週(9月24日～30日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社1.0円の引き上げとなった。

灯油は18ℓベースで同4円安の1,453円(1ℓベースでは80.7円で同0.2円安)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油も2週連続の値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは7道府県、横ばいは7県、値下がり33都道府県となった。全国最安値は徳島県の126.9円(前週比0.9円安)、その次に安いのが宮城県の128.4円(同0.6円安)、最高値は長崎県の144.4円(同0.8円安)。最も値上がりしたのは、同0.4円高の三重県(133.6円)・青森県(130.3円)、横ばいは大分県等7県、最も値下がりしたのは、同1.3円安の福島県(137.0円)だった。今週(9月22日～28日)は、原油価格はわずかに値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストはわずかに値上がりしたと見られる。次週(10月1日～7日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。次回調査時(10月5日)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がりか予想される。

また、9月28日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(9月23日)比0.3円安の134.7円、軽油は同0.2円安の115.3円、

(資工庁公表) (単位: 円/ℓ)

[週動向]	今週 (9/28)	前週 (9/23)	前週比	直近高値
レギュラー	134.7	135.0	▼ -0.3	08/8/4 185.1
灯油	80.7	80.9	▼ -0.2	08/8/11 132.1
軽油	115.3	115.5	▼ -0.2	08/8/4 167.4

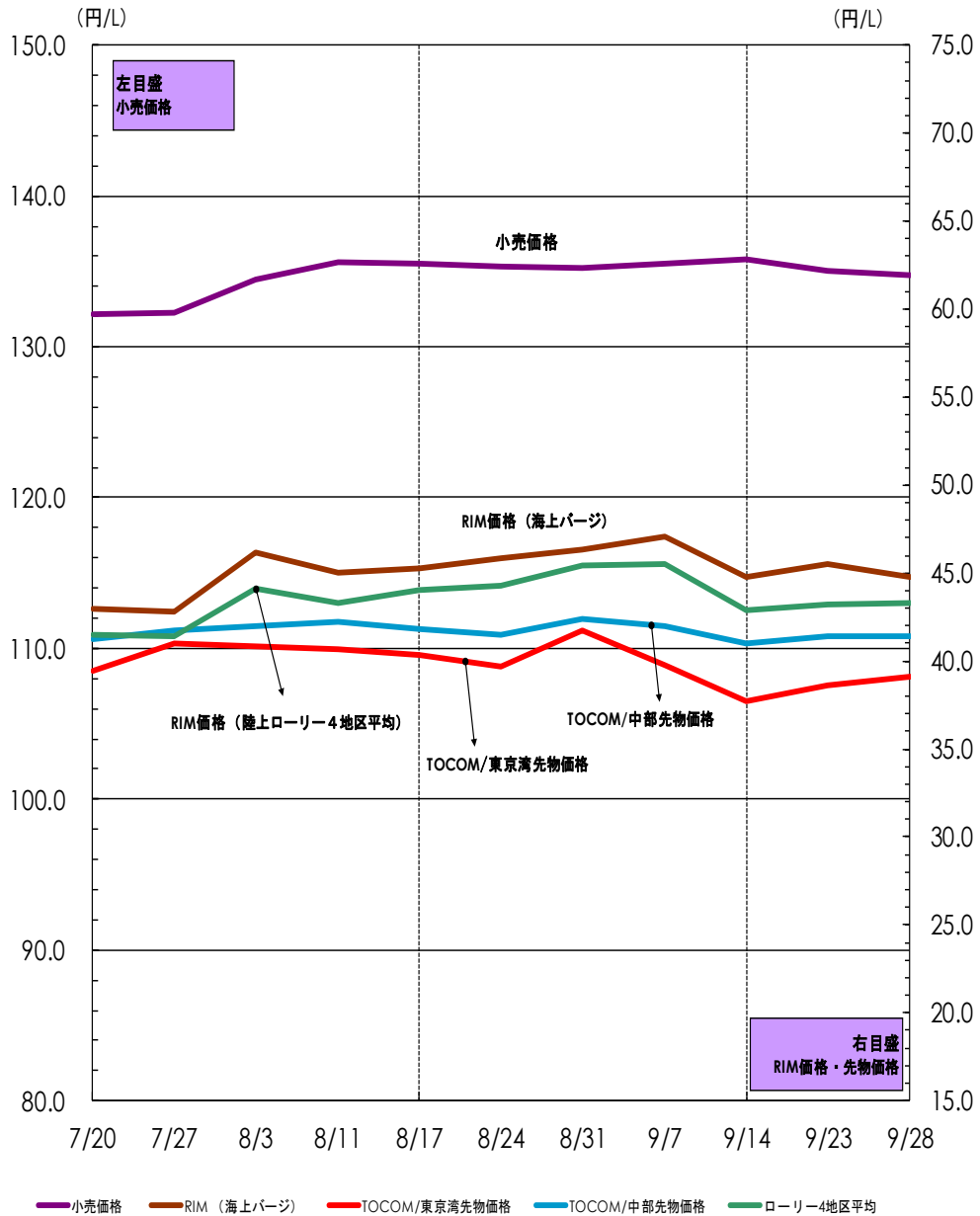
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2020/7/20 ~ 2020/9/28)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2020第14号) の公表は、10/9 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在) は、8月26日 (水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。